

学番	1	県立新潟高等学校
----	---	----------

学校運営計画			
学校運営方針	(1)全体の奉仕者として法令等を遵守し、課題を共有して課題解決を図るとともに、教職員相互はもとより、生徒や保護者、地域等との信頼関係の構築を目指して協働する。 (2)職層に応じた役割と職責を自覚し、組織的にその力量を結集して教育活動を創造する意欲と態度をもって職務に精励する。 (3)PDCAサイクルを活用して、学校評価、授業評価等の教育活動の検証に取り組み、継続的な学校改革に向けた教育活動の改善・充実を実践する。		
三つの方針(スクール・ポリシー)			
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	～卒業までに、以下の資質・能力を身に付けた生徒を育成します。～ ①挑戦する気概を持ち、新たな価値を創造し、社会の発展に貢献しようとする生徒 ②課題意識をもって考え、行動し、人と協働しながら主体的に課題解決を図る生徒 ③高い規範意識を持ち、自他を尊重できる、人間性豊かな生徒		
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①知的好奇心を高める授業を展開し、自ら学び、自ら考え、自ら行動する活動を取り入れながら、確かな学力を育みます。 普通科②大学や関係機関等と連携しながら「本物」に触れる機会を提供することにより、幅広い視野に立って、自己や社会の在り方を模索し、探究する学びを進めます。 理数科②医療分野・科学分野を中心とした大学や関係機関等と連携しながら、科学的な素養を深め、科学研究の基本となる能力を身に付けるとともに、幅広い視野に立って、自己や社会の在り方を模索します。 ③課外活動や特別活動などを自主的・自律的に行う中で、仲間とともに課題解決に取り組み、協調性やリーダーシップを高めることができる環境を提供します。 ④社会や世界で起こっている事象に目を向け、他者の立場に立って考える力や人権に対する意識を高めるよう促します。		
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①学問の本質を探究する意欲に溢れ、高い理想や目標に向かって自ら行動する生徒 普通科②困難に直面しても、前向きに挑戦し続けることのできる生徒 理数科②数学や理科に興味関心があり、論理的・科学的思考力をさらに高めたい生徒 ③教科・科目の学習はもとより、学校行事や文化的・社会的活動にも積極的に取り組む生徒 ④他者を尊重し、多様性を認めながら、目標に向かって協働的に取り組むことのできる生徒		
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標	
成果 ○探究活動の充実 探究部の創設2年目となり、これまでの探究活動を整理、発展することができた。また、他校の生徒と協働して課題発見、解決することを目指す「新潟県高校生会議」の取組によって、県内各校、各地域の持つ問題点に気づき、その解決に向けて議論することができた。またアントレプレナーシップ教育の実践や高等学校DX加速化推進事業により、先進的な活動を行うことができた。 ○丁寧ないじめ案件への対応 令和6年度はいじめ認知件数が46件と多いが、これは「いじめを見逃さない」対応を十分できたと言える。全職員が、生徒の変化を見逃さず、一丸となっていじめは許されない行為であることを指導した。 課題 ○教職員の授業力、指導力の向上を図る。 生徒の知的好奇心を喚起しつつ、探究型学習の導入やICT機器の活用等、生徒が自ら主体的に学び、考える授業を目指すため、互見授業の取組など具体的な方策を講じる。 ○いじめ予防教育およびいじめ等発生における対応の充実を図る。 いじめ予防教育を充実させ、生徒が安心して学べる学校をつくる。また、人間関係によるトラブルは、1、2年次で丁寧に対応し、3年次では進学指導に集中できるようにする。 ○服装、あいさつ等の基本的な生活習慣の向上を図る。 基本的な生活習慣を職員が一丸となって指導を行い、学校全体で人間教育を行う。 ○職員の健康や勤務時間に対する意識を高めていく。	○深い学びを実現できる魅力的な授業により、学力の充実を図る。 ○探究活動を通して、未来をひらく創造力と柔軟な思考力、論理的な思考力を養う。 ○生徒の自主的・自律的な教育活動を通して、各種技能を高めるとともにチャレンジ精神を涵養する。 ○組織的・系統的な進路指導により、自己の在り方生き方について自覚を深めさせるとともに自己実現を支援する。 ○思いやりや礼節を重んじ、豊かな人間性を育成する。 ○国際的な視野を持ち、主体的で調和のとれた人間の育成を目指す。 ○生徒の状況について学年、委員会等で情報を共有し、家庭とも連携して心身ともに健康な学校生活を送らせる。 ○持続可能な学校体制を構築し、業務と健康的な生活のバランスをとるようにする。	○公開授業・授業研究を学年・教科横断的に取り組むなど授業改善に向けた取組を一層強化する。 ○互見授業、研究授業、共同研究を通じて、各学年及び教科で組織的、系統的に指導力向上に取り組む。 ○本校独自の探究プロセスを研究する。 ○職員の強みや、各界で活躍する外部人材を積極的に活用し、生徒の意識啓発と将来リーダーとして活躍するために必要とされる資質・技能の向上に取り組む。 ○他者から求められることを意識し、互いを尊重できる生徒の育成に取り組む。 ○各学年、分掌の取組と本校独自のグローバル教育プログラム等と有機的に関連させ、その目的の達成を目指す。 ○教育活動の情報を、学校からの便りや本校Webページ等を通じて積極的に発信する。 ○職員研修等を通じ、教育相談や生徒支援に係る対応力を向上させる。 ○時間外勤務は、1か月45時間以内を目安とし、80時間を超えることがないようにする。 ○「県立新潟高等学校部活動に係る活動方針」を遵守する。	
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
○深い学びを実現できる魅力的な授業により、学力の充実を図る。 ○探究活動を通して、未来をひらく創造力と柔軟な思考力、論理的な思考力を養う。	1学年 自主自律の精神に基づき、自ら学習に取り組む姿勢を育成する。	授業や朝読書をきっかけとして幅広い知識を身につけ、未知なるものへの探究心を養う。 総合的な探究の時間を通して興味関心を高め、取り組みたい課題を発見できるように促す。	
	2学年 真理追究の精神に基づき、主体的に探究し、協働的に活動する姿勢を養う。	授業や総合的な探究の時間を通して考察を深め、それを言語化し、他者に向けた確に発信できるように促す。 青陵祭・修学旅行・青山祭等の各種行事を通して協働的な活動に意欲的に取り組むように促す。また、同じ学年の中だけでなく、上級生・下級生との繋がりの中で果たすべき役割についても自覚できるように導く。	
	3学年 社会貢献を実現するため、真理追究の精神に基づく主体的な探究精神をさらに養う。	総合的な探究の時間の学年のテーマ「Brave new World」に対する考察を深め、それを言語化し、論文としてまとめる。 朝読書を通して幅広い学びを継続させ、同時に朝の心の平穏を保たせる。	
	教務 行事を含めた適切な授業計画を立案し実施する。	単位履修に必要な授業時数が確保された、年間の授業計画を立案する。 適切な時間割編成、日々の時間変更・調整によって、確実に授業を実施する。	
教務 新教育課程実施において、授業内容、指導方法、評価方法を継続検討する。	令和4年度から実施された新教育課程において、授業内容、指導方法、評価方法を継続して検討を行う。特に、令和4年度から導入された「統合型校務支援システム」の成績処理業務の必要に応じた修正をはかる。		
探究 「総合的な探究の時間」および「理数探究」の目標を立て、指導計画を立案し、検証する。	「総合的な探究の時間」が学校として一貫性をもち、より充実したものとなるよう指導内容を検討する。 「総合的な探究の時間」について事業評価および検証し、次年度につなげる。		
教育情報 生徒や職員が図書・視聴覚教材・情報教材等を快適に使用できるよう、適切に管理と運用を行う。	各教科や学年から情報を得て、生徒や教員が求めている資料を用意し、生徒の読書活動や探究的な学習を活性化するために、新着案内「らいぶらりい」を発行する。生徒の読書意欲向上のために「図書委員会だより」を年3回、「図書館報」を年1回発行する。 ICTを活用した、魅力的でわかりやすい授業を行うため、校内のICT環境を整備する。Wi-FiとiPadの故障や不具合が起きたときに速やかに対応できるよう、業者やNEINサポートとの連絡を密に行う。		

○生徒の自主的・自律的な教育活動を通して、各種技能を高めるとともにチャレンジ精神を涵養する。 ○組織的・系統的な進路指導により、自己の在り方生き方について自覚を深めさせるとともに自己実現を支援する。 ○思いやりや礼節を重んじ、豊かな人間性を育成する。	1学年 自己及び他者を理解し、思いやりを持って主体的に行動できる力を育成する。	個人面談や教科面談によって、生徒一人一人の生活・学習状況や進路希望を把握し、生徒をサポートする。 各種行事や講演会を活用し、学ぶことの意義について考えを深め、社会貢献への意識を高める。			
	2学年 生徒が自分自身を律し、全てにおいて、自分事として行動できるようにする。	担任・副担任面談を通して、生徒が自己考察・自己理解を深められるように促す。また、周囲の環境のおかげで、自分があることに気づかせる。 講演会や進路講話を通じて、進路意識を高く持ち日々の学習に十分に取り組み、年度後半の5ヶ月プランに臨んでいけるように導く。			
	3学年 目指す自己を実現するために自律的・自発的に、計画性をもって行動する姿勢を養う。	担任面談や教科面談を通して、目標とそれを実現するための道筋を確認させ、心理的なサポートを行う。 学年だよりを通して進路情報や応援メッセージを適切なタイミングで提供し、個々の進路実現への動機付けをする。			
	進路指導 生徒が主体的に行動し、授業を中心として学力を伸ばすことにより進路実現ができるよう、「自主自律」「真理追究」「社会貢献」の教育目標に沿って生徒に指針を与える具体的にきめ細かな進路指導を行う。	入試結果・分析および体験談等を掲載した「コンパス」を充実させ、進路選択の際に適切な指針を与えるものとする。また、学年集会や保護者会等を通じて生徒・保護者に情報提供を行う。さらに本校の指導に一貫性を持たせるため進路指導に関する職員研修を年3回行う。			
	生徒指導 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を高めるとともに、他者と協調する態度を育成する。	登校指導や服装指導を通じて生徒の気づきを促し、基本的な生活習慣を確立するようはたらきかける。 部活動や課外活動への参加を促して、自己の能力と可能性を広げるとともに、他者との積極的な関わりを促す。			
	○国際的な視野を持ち、主体的で調和のとれた人間の育成を目指す。	1学年 社会や世界に照らして自分自身を見つめられるように促す。	日常の様々な場面で思いやりを持って行動するように促し、人権意識を高められるように導く。 部活動等の課外活動への積極的な参加を通して他者と交流し、自己肯定感を高められるように促す。		
		2学年 社会と世界に照らして自分自身を見つめるように促し、社会貢献のための素地を養う。	SNSも含めた日常の様々な場面で思いやりを持って行動するように強く促し、基本的な人権とは何かを考えることによって、人権意識を高められるように導く。 日本や世界の出来事に敏感であるように指導し、「今を生きる現代人」としての自覚を促す。また、リーダーたらんとする気概を養う。		
		3学年 最高学年として自覚を持ち、場面に応じてリーダーシップを発揮し、集団を統率する姿勢を養う。	青陵祭で仲間と協働的・創造的に全体を創り上げる経験を積ませる。 部活動で自己を磨くと同時に集団をまとめる力を育成する。		
		探究 国際教育の研修骨子を作成、業者と実施計画を調整し、参加者を募集する。	STEAMアメリカ研修など国外研修骨子を作成し、国際的な視野を持った主体的な人間を育成するため、参加者を募集する。 グローバルリーダー研修など国内研修骨子を作成し、国際的な視野を持った主体的な人間を育成するため、参加者を募集する。		
		生徒指導 学校行事や生徒会活動・部活動への参加を積極的に促し、相互理解や自己の啓発を図るよう指導する。	青陵祭や青山祭などの行事を通じて、集団の一員としての自覚を促し、リーダーシップと協調性を育成する。 生徒会活動を通じて自主性を高めるとともに、校外活動を奨励し、社会とより深く関わることで視野を広げさせる。		
人権教育推進 人権に関する知的理解と人権感覚を基盤として、自他の尊重と人権擁護を実践する力の育成を図る。		各学年で人権学習会を企画・開催し、人権に関する現状や諸問題の考察を通して自分自身を振り返り、人権に関する知的理解と人権感覚の向上を図る。 教職員が各種研修会で学んだことを職員会議で報告し、情報の共有を図ることで、人権に関する知的理解と人権感覚を向上させる。また、人権だよりを定期的に発行して生徒・保護者に配付し、研修内容の共有を図る。			
○生徒の状況について学年、委員会等で情報を共有し、家庭とも連携して心身ともに健康な学校生活を送らせる。		1学年 様々な形で家庭と連携を図る。	学年だより、保護者会、保護者面談で情報提供を行う。また、ICTを活用して迅速に保護者と情報の共有を図る。		
		2学年 様々な形で家庭と連携を図る。	保護者会、保護者面談だけではなく、生徒の事で、気づいたことは電話などを通して、双方向のコミュニケーションをはかるように努力する。		
		3学年 様々な形で家庭と連携を図る。	学年だより、保護者会、保護者面談で情報提供を行う。		
		生徒指導 学校生活全般において生徒の情報を共有し、迅速、かつ組織的に対応する。	各学年やいじめ対策推進委員会と情報を共有し、保護者の協力を得ながら諸問題の発生を未然に防ぐとともに、問題の早期解決を図る。		
	保健環境 健康診断受診率100%を目標に行い、事後措置通知を家庭に配布し、受診や生活習慣改善を促す。	健康診断の事後措置通知を家庭に配布する。 生活改善が必要な生徒には、個別指導を行う。			
	特別支援 様々な事情を抱え、また精神的・身体的な理由で特別に支援が必要な生徒に対し、生徒の事情に理解を深め、情報の共有化を図り、組織的に生徒の個に適した支援を行う。	担任や副担任は、定期的実施している個人面談や日常の学校生活を通して、各クラス生徒の実態を把握する。 欠席や欠時数の多い生徒、また個人面談や教育相談で課題のある生徒は、保護者や関係教職員、特別支援教育コーディネーター、保健室、学校カウンセラー等との連絡を密にし、その生徒の指導にあたる。 特別な支援を必要とする生徒について、特別支援委員会で、その生徒の状況を把握して対応を検討し、職員会議で周知する。保護者や学校カウンセラーと連絡を密にし、生徒の理解を図るとともに、適切な対応と支援ができるようにする。 生徒が抱える様々な事情に応じて、組織的な対応や支援ができるように、特別支援教育への理解や対応力の向上に関する職員研修会を開催する。			
	○持続可能な学校体制を構築し、業務と健康的な生活のバランスをとるようにする。	1学年 ICT機器を活用して、授業改善と業務の効率化を図る。	タブレットや電子黒板の活用により効果的な授業展開を行う。生徒への連絡やアンケートはGoogle Classroom、ロイノートを活用し、業務の効率化を図る。他学年との連携を密にし、業務の改善や精選を行う。		
		2学年 ICT機器を活用して、生徒への連絡や授業改善と業務の効率化を図る。	授業ではタブレットや電子黒板を、調査や連絡にはGoogle Classroomやさくら連絡網を活用する。他学年との連携もはかり、効率の良い業務につなげる。		
		3学年 場面に応じてICT機器を適切に活用し、授業改善と業務の効率化に取り組む。	タブレットや電子黒板の活用により効果的な授業展開を行う。生徒への連絡やアンケートはGoogle Classroomを活用し、業務の効率化を図る。		
		教務 調査統計、広報などの諸業務においてICT機器を活用し、業務の効率化に取り組む。特に、統合型校務支援システムを運用することで業務の効率化をはかる。	ICTの活用を進め、学校評価における情報の集約方法等の一層の見直しをはかり、作業量の削減をはかる。生徒や保護者への調査や連絡などのgoogleformの活用、さくら連絡網での連絡、PTA総会資料やシラバス等のペーパーレス化を図る。また、「統合型校務支援システム」を用いた関連業務の運用面の改善を図る。特に、成績・出欠処理、生徒指導要録や調査書などの各種証明書等の発行などの運用を行うことで業務の効率化をはかる。		
生徒指導 適切にICTを活用することにより、業務を円滑にし、情報共有や伝達をスムーズに行い、時間の節約や業務負担減少化を図る。		さくら連絡網やGoogleclassroomを活用してアンケート調査の配布、集約作業を軽減する。			
進路指導 業務の軽減を図り、負担を増加させない工夫をする。		各学年で作成した資料を共有し、次年度に引き継ぐなどして、学校として継続的な指導が行えるようにする。			
探究 探究活動に対する教員の関わり方を研究し、業務負担の均一化を図る。		探究活動への教員の関わり方を振り返り、生徒が主体的に取り組む活動になるように、教員並びに生徒を支援する。			
保健環境 掲示板の活用や分掌フォルダの整理、見直しを行い連絡や引き継ぎの業務を円滑にする。感染症情報システム(サーベイランス)とさくら連絡網、月別での感染症発生状況報告書の入力までの手順や方法を省力化する。		調査統計の集約方法等を検討し、校務支援システムの活用や入力シートの作成、変更等で各報告に対して簡略化をはかる。			
教育情報 保護者宛文書や授業で配布するプリント、アンケートなどのデジタル化を進める。		さくら連絡網やGoogleClassroom、ロイノートを活用して、印刷、配布、回収、集計のデジタル化を進め、校務の効率化を図る。			
成果				総合評価	